

岩国市立美和病院 公的医療機関等2025プラン

平成30年10月 策定

【岩国市立美和病院の基本情報】

○医療機関名：岩国市立美和病院

○開設主体：岩国市

○所在地：山口県岩国市美和町渋前1776番地

○許可病床数：

（病床の種別） 一般 60床

（病床機能別） 急性期 60床

○稼働病床数：（平成29年度実績）

（病床の種別） 一般 48床

（病床機能別） 急性期 48床

○診療科目：内科、外科、小児科、整形外科、眼科及び神経科

○職員数：

・ 医師 3.3人

・ 看護職員 36.7人

・ 専門職 7.7人

・ 事務職員 9.2人

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状

- 本圏域は、岩国市及び和木町の1市1町で構成されており、3つの有人離島を有し、面積は山口県全体の14.5パーセントを占めている。
地理的には、東部に市街地等が集中する一方、北部は山間地が多く、過疎化が進み、交通アクセスにも難がある。
- 岩国市北部の玖北地域は、面積454.05平方キロメートルと市全域の約52パーセントを占めているが、そのほとんどが林地であり、僅かな平坦地に農地や住宅地が点在している中山間地域となっている。
- 玖北地域の人口は、平成28年4月1日現在8,867人、高齢者人口4,513人、高齢化率50.9パーセントとなっており、平成32年度の将来推計人口は7,661人、高齢者人口は4,177人、高齢化率54.5パーセントを見込んでおり、高齢化が進んでいる。
- 玖北地域の医療資源としては、錦中央病院と美和病院が救急告示の指定を受けており、一次及び二次救急患者の受け入れを行っているほか、市立の無床診療所が1か所、民間の無床診療所が4か所となっている。

② 構想区域の課題

- 医師、看護師等の医療従事者の不足
(特に両市立病院の常勤医師の確保)
- 需要が増加する救急医療への対応
(三次救急医療機関への移動は60分以上かかる地域もあり、重症者は必要であればドクターヘリの活用や応急処置を行い医師同乗での搬送を行っている。)
- 回復期機能を担う病床の不足
(両市立病院とも、1病棟でいろいろな機能を持ち合わせている。)
- 24時間対応の訪問看護、かかりつけ医など在宅医療提供体制の確保
(訪問診療・訪問看護への取組が遅れている。)
- 介護施設等の受け皿の確保と連携の強化
(嘱託診療を行っているがマンパワーが足りていない。)
- 小児・周産期医療、旧郡部などにおけるへき地医療の確保
(地域医療の確保のため、両市立病院ともかかりつけ医の役割も担っている。)

③ 自施設の現状

○病院の理念

私たち病院職員は市立の病院に従事する者として、また医療に携わる者として日常の業務において以下のことに努めます。

- ・患者さん及び家族と十分なコミュニケーションを図り、信頼関係に基づいた医療を行います。
- ・患者さんに良質な医療を提供するために進歩する医療の知識と技術の習得に励みます。
- ・患者さんのみならず家族の方にも安心でき、落ち着いて療養できる環境を提供します。
- ・患者さんならびに家族の人間性を尊重すると共に多様な価値観の共存に努力します。
- ・生命の尊厳に対して謙虚な姿勢をとります。

○診療実績(平成29年度)

- ・届出入院基本料 15対1
- ・1日平均入院患者数 38.6人
- ・平均在院日数 35.0日
- ・病床利用率 64.3%
- ・1日平均外来患者数 101.4人
- ・救急搬送受入数 193件
- ・訪問看護実績 1,593回(244日、59人)

○特徴

- ・二次救急医療機関
- ・政策医療(5疾病5事業及び在宅医療)
がんの療養支援(胃、大腸、肺、子宮並びに肝臓)、脳卒中、心筋梗塞等の心血管疾患及び糖尿病並びに救急医療、へき地医療並びに在宅医療
- ・他機関との連携
市内中心部あるいは隣接市にある総合病院と連携をとり、高度医療を要する患者を紹介するとともに急性期治療終了後の患者や近隣の開業医からの紹介を受け入れる。
町内の特別養護老人ホームや福祉施設の協力病院として嘱託診療を行っている。
また、訪問看護・訪問診療を行い、それに伴いケアマネージャー、地域包括支援センター、福祉施設と定期的な会議をもち、情報交換や連携の強化を図っている。

④ 自施設の課題

○医師の確保が困難

○高齢化の進行や人口の減少等により受診者の減少が見込まれる。

○新病院の建設

病院施設の耐震性に疑問ありの診断が出ていることと、施設の老朽化が進行し、設備の不具合も生じているため、新病院建設計画を早期に着実に実施する必要がある。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- 初期診療から慢性期診療まで幅広く担う地域の拠点病院としての機能
- 住民が等しく適切な医療サービスを受けられるよう、へき地医療の維持・確保
- 救急告示病院として、医療機関の少ない地域における初期～二次救急医療の確保
- 訪問看護・訪問リハビリテーションや看取り等の機能を推進と、地域包括ケアシステムにおける中核機能
- 地域包括ケア病棟の設置を検討と、高度急性期病院や介護施設等との連携強化
- 認知症患者への対応強化と、精神病棟を持つ病院等との連携強化
- 想定される大規模災害時における医療体制の確保
- 臨床研修や総合診療専門医養成のための研修施設として研修生の受け入れ

② 今後持つべき病床機能

- 地域医療の確保の観点から、救急を含めた初期診療から慢性期までの病床を保有する。
- 将来の人口減少を鑑みて、病床を一部減少させる。
- 急性期を原則とするが、圏域に不足する回復期の機能を確保するため、急性期の一部を地域包括ケア病床への機能変更を検討する。
- 地域の在宅医療の後方支援を行う。

③ その他見直すべき点

- 圏域全体の中で、地域の特性を勘案しながら、病院の機能や医療サービスの提供体制等について見直しをしていく必要がある。
- 新病院建設を契機に、これから必要となる機能に対応できるような施設整備を行う。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	60床		54床
回復期			
慢性期			
(合計)	60床		54床

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度	美和病院あり方検討会 美和病院あり方ワークショップ		集中的な検討を促進 2年間程度で
2018年度	美和病院あり方検討会	新病院の基本構想策定	
2019～2020 年度	新病院基本設計業務 新病院用地の造成工事 地域包括ケア病床に関する検討	新病院における地域包括ケア病床について方針決定	第7期 介護保険 事業計画 第7次医療計画
2021～2023 年度	新病院新築工事及び開院		

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設	/		→
廃止			→
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率： 76.0%
- ・ 手術室稼働率： —
- ・ 紹介率： 20.0%
- ・ 逆紹介率： 30.0%

経営に関する項目*

- ・ 人件費率： 53.0%
- ・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合：0.25%

* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】

(自由記載)

岩国市立錦中央病院 公的医療機関等2025プラン

平成30年10月 策定

【岩国市立錦中央病院の基本情報】

○医療機関名：岩国市立錦中央病院

○開設主体：岩国市

○所在地：山口県岩国市錦町広瀬1072番地1

○許可病床数：

（病床の種別） 一般 58床

（病床機能別） 急性期 58床

○稼働病床数：（平成29年度実績）

（病床の種別） 一般 57床

（病床機能別） 急性期 57床

○診療科目：内科、外科、整形外科、脳外科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科及び皮膚科

○職員数

- ・ 医師 4.6人
- ・ 看護職員 37.6人
- ・ 専門職 9.0人
- ・ 事務職員 5.0人
- ・ その他職員 6.0人

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状

- 本圏域は、岩国市及び和木町の1市1町で構成されており、3つの有人離島を有し、面積は山口県全体の14.5パーセントを占めている。
地理的には、東部に市街地等が集中する一方、北部は山間地が多く、過疎化が進み、交通アクセスにも難がある。
- 岩国市北部の玖北地域は、面積454.05平方キロメートルと市全域の約52パーセントを占めているが、そのほとんどが林地であり、僅かな平坦地に農地や住宅地が点在している中山間地域となっている。
- 玖北地域の人口は、平成28年4月1日現在8,867人、高齢者人口4,513人、高齢化率50.9パーセントとなっており、平成32年度の将来推計人口は7,661人、高齢者人口は4,177人、高齢化率54.5パーセントを見込んでおり、高齢化が進んでいる。
- 玖北地域の医療資源としては、錦中央病院と美和病院が救急告示の指定を受けており、一次及び二次救急患者の受け入れを行っているほか、市立の無床診療所が1か所、民間の無床診療所が4か所となっている。

② 構想区域の課題

- 医師、看護師等の医療従事者の不足
(特に両市立病院の常勤医師の確保)
- 需要が増加する救急医療への対応
(三次救急医療機関への移動は60分以上かかる地域もあり、重症者は必要であればドクターヘリの活用や応急処置を行い医師同乗での搬送を行っている。)
- 回復期機能を担う病床の不足
(両市立病院とも、1病棟でいろいろな機能を持ち合わせている。)
- 24時間対応の訪問看護、かかりつけ医など在宅医療提供体制の確保
(訪問診療・訪問看護への取組が遅れている。)
- 介護施設等の受け皿の確保と連携の強化
(嘱託診療を行っているがマンパワーが足りていない。)
- 小児・周産期医療、旧郡部などにおけるへき地医療の確保
(地域医療の確保のため、両市立病院ともかかりつけ医の役割も担っている。)

③ 自施設の現状

○病院の理念

私たちは、地域の人々にいつでも、だれにでも、より良い医療を提供し、愛され、親しまれ、信頼される病院づくりに努めます。

○基本方針

- 1 医学の進歩に対応した医療の質の向上に努めます。
- 2 地域住民の要望に応え、生命と健康をまもります。
- 3 明るさと、やさしさと、思いやりをもって患者に接し、インフォームドコンセントを基本とした医療に努めます。
- 4 患者が安心して、何でも相談できる病院づくりに努めます。
- 5 医療機関及び保健・福祉施設との連携を図り、地域の中核病院としての役割分担を認識した医療の提供に努めます。

○診療実績(平成29年度)

- | | |
|------------|-------|
| ・届出入院基本料 | 15対1 |
| ・1日平均入院患者数 | 43.6人 |
| ・平均在院日数 | 30.1日 |
| ・病床利用率 | 75.2% |
| ・1日平均外来患者数 | 95.9人 |
| ・救急搬送受入数 | 107件 |

○特徴

- ・二次救急医療機関
- ・政策医療(5疾病5事業及び在宅医療)
がんの療養支援、脳卒中の初期診療・予防、心筋梗塞等の初期診療・予防及び糖尿病初期治療並びに救急医療、へき地医療並びに在宅医療
- ・他機関との連携
高度医療を必要とする患者は総合病院等へ紹介している。
地域内のクリニック等医療機関と在宅患者の入院受け入れについて連携している。
- ・その他
へき地医療協力病院として、錦須川診療所、錦高根診療所、錦宇佐診療所の3か所の附属診療所を運営している。
平成30年度は、市立本郷診療所(へき地診療所)の運営についても携わっている。

④ 自施設の課題

○医師の確保、医療スタッフの確保が最重要課題

○在宅医療の推進

- ・高齢化の進行に伴い必要性が増してきている訪問診療や訪問看護など在宅医療への対応が遅れているため、体制強化をするため準備を進めている。

○病床機能の一部変更

- ・病床の一部を地域包括ケア病床に変更することについての検討
45平方メートル以上の機能訓練室が必要。(必要なスペースの確保が難しい。)。専従の理学療法士や専任の医師の確保も必要。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- 地域に唯一の病院として、初期から慢性期まで患者の受け入れには柔軟に対処していく。
- 救急告示（二次）の指定を受けているため、基本的には現在の病床機能を維持する。ただし、一部病床の機能変更について、引き続き検討する。
- 訪問看護部門や地域連携部門を充実させ、訪問診療、在宅医療の推進を図る。
 - ・病室の一部をムンテラルームやスタッフの控室等に用途変更する。
- 地域の救急医療提供体制の確保
 - ・市内中心部まで1時間余り時間を要する立地条件にあることから、この地域の救急医療提供体制を維持していくため当院の役割は重要である。
- へき地医療提供体制の確保
 - ・総合診療医や内科医育成の専門プログラムの連携施設、特別連携施設として研修に協力し、将来のへき地医療の担い手となり得る人材育成に努める。
 - ・旧玖北地域は患者だけでなく、医師の高齢化も進んできており、この地域の医療提供体制の維持、地域包括ケアシステムの円滑な運用のためにも、この地域の中核的な医療提供機関としての役割を果たす必要がある。

② 今後持つべき病床機能

- 地域医療の確保の観点から、救急を含めた初期診療から慢性期までの病床を保有する。
- 将来の人口減少を鑑みて、病床を一部減少させる。
- 急性期を原則とするが、圏域に不足する回復期の機能を確保するため、急性期の一部について地域包括ケア病床への機能変更を検討する。
- 地域の在宅医療の後方支援を行う。

③ その他見直すべき点

- 直営診療所の運営
 - ・3か所の附属診療所について、診療所周辺の人口減少、道路状況の改善によるアクセス時間の短縮、症状の変化等に伴い本院での診察へシフトしてきた等の理由により附属診療所の患者数が減少している。そのため、診療所の運営について見直しを行い、医師が訪問診療等に携わる時間の確保にもつなげていきたい。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	58床		53床
回復期			
慢性期			
(合計)	58床		53床

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度			集中的な検討を促進 2年間程度で
2018年度			
2019～2020年度	病室機能の一部を用途変更 在宅医療への取り組み 地域包括ケア病床導入可否の検討 多職種による連携体制構築へき地医療の維持・確保	病床数削減、ムンテラルーム、スタッフスペースの確保 訪問看護開始、訪問診療先の拡大 地域包括ケア病床導入可否の決定 地域包括ケアシステム運用 総合診療専門研修医受入	第7期介護保険事業計画 第7次医療計画
2021～2023年度	訪問診療・訪問看護の充実 多職種による連携体制の充実 へき地医療の維持・確保	訪問先の数の増加 後方支援医療機関として連携する地域の医療機関を増やす。 へき地医療を担う医師の確保	第8期介護保険事業計画

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設	/		
廃止			
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率： 85.0%
- ・ 手術室稼働率： —
- ・ 紹介率： 20.0%
- ・ 逆紹介率： 50.0%

経営に関する項目*

- ・ 人件費率： 50.0%
- ・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合： 0.15%

* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】

(自由記載)

岩国みなみ病院 医療機関2025プラン

平成30年 9月 策定

【基本情報】

医療機関名	岩国みなみ病院
開設主体	医療法人
所在地	岩国市南岩国町2丁目77番23号
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	60 一般病床 60床 急性期 60床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	60床 一般 60床 急性期 60床
診療科目	呼吸器内科、呼吸器外科、消化器内科、消化器外科、外科 放射線科、麻酔科
職員数	52名
・ 医師	3名
・ 看護職員	27名
・ 専門職	15名
・ 事務職員	7名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

届出入院基本料 一般病棟10対1入院基本料
平均在院日数 11.9日、 病床稼働率 33.6%
H29.4月より病棟再開

② 自施設の課題

- ・ 当地域で不足している、呼吸器疾患の回復期患者の受け皿となる、当院の役割の再検討が必要

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・ 地域における呼吸器疾患の患者の回復期機能の役割を担う

② 今後持つべき病床機能

- ・ 現在の急性期病棟は一定程度維持する必要があるが、規模の適正化を検討する
- ・ 回復期機能を提供する病棟の整備について検討する

③ その他見直すべき点

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	60床		45床
回復期			15床
慢性期			
休棟等			
(合計)	60床		60床
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

リハビリテーション科の追加

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

--

【4. その他】(自由記載)

--

錦病院

医療機関2025プラン

平成30年 10月 策定

【基本情報】

医療機関名	錦病院
開設主体	医療法人 錦病院
所在地	岩国市錦見7丁目15-7
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	一般病床 急性期
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	48床 一般 48床 急性期 48床
診療科目	外科 消化器外科 内科 整形外科 肛門外科 乳腺外科 放射線科
職員数 ・ 医師 ・ 看護職員 ・ 専門職 ・ 事務職員	6.5名 41名 5名 10名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

届出入院基本料 急性期一般入院基本料 1

平均在院日数 8.4日

病床稼働率 63%

② 自施設の課題

手術の急患が多く、地域の急性期医療が不足するものと思われ、小規模ながら現状維持を検討

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

地域におけるかかりつけ医的急性期医療を担う

② 今後持つべき病床機能

急性期一般入院基本料を維持

③ その他見直すべき点

今後、リハビリテーション病床が必要になるのか検討

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	48		48
回復期			
慢性期			
休棟等			
(合計)	48		48
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

--

【4. その他】(自由記載)

--

岩国中央病院

医療機関2025プラン

平成30年 10月 策定

【基本情報】

医療機関名	医療法人光風会 岩国中央病院
開設主体	医療法人光風会
所在地	岩国市今津町4丁目15-3
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	22床 一般病床 22床 急性期 22床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	22床 一般病床 22床 急性期 22床
診療科目	呼吸器内科・消化器内科・糖尿病内科・腎臓内科・人工透析内科 消化器外科・乳腺外科・肛門外科・整形外科・腫瘍外科 内視鏡外科・放射線診断科・臨床検査科・麻酔科・血管外科
職員数 ・ 医師 ・ 看護職員 ・ 専門職 ・ 事務職員	8名（非常勤医師含む） 34名 16名 8名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

届出入院基本料 一般病棟10対1入院基本料

平均在院日数 18日（7月1日～9月30日）

病床稼働率 33.9%（9月1日～9月30日）

② 自施設の課題

- ・今後も増加傾向にある透析患者の受け入れ態勢の充実。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・透析患者の増加に伴う受け入れ態勢のさらなる充実を図る。また、透析患者が透析以外の病気、怪我などで入院が必要となった患者の受入を積極的に行う。

② 今後持つべき病床機能

- ・現在の急性期病床を見直す予定はない。

③ その他見直すべき点

- ・今年度より、病床利用率の低下及び、透析患者の増加に対する対応という観点から病床数を30床から22床へと減床を行い、透析ベッドを増やした。現在の病床規模は適正と考え、当面はこの規模で運営を進めていく予定である。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	22床		22床
回復期			
慢性期			
休棟等			
(合計)	22床		22床
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

--

【4. その他】(自由記載)

--

医療法人岩国病院

医療機関2025プラン

平成30年 9月 策定

【基本情報】

医療機関名	医療法人 岩国病院
開設主体	医療法人
所在地	山口県岩国市岩国3丁目2-7
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	60床 一般病棟・療養病棟 急性期41床・慢性期19床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	60床 一般病床41床・療養病棟19床 急性期41床・慢性期19床
診療科目	内科・消化器内科・神経内科・整形外科・小児科・産婦人科
職員数 ・ 医師 ・ 看護職員 ・ 専門職 ・ 事務職員	16名 39名 7名(薬剤師・管理栄養士・診療放射線技師・臨床検査技師・理学療法士) 16名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

平成30年8月現在

病床稼働率 内科一般：87.6%

内科療養：100%

産婦人科：24.2%

② 自施設の課題

内科については、従来より、超急性期を脱した段階から慢性の段階までの患者の受け皿としての機能を自負しているが、患者の全般的な高齢化等により、各病棟の業務内容や人員の配置内容を再確認中である。産科については、全国的な少子化の傾向を受け、取扱い件数が減少の傾向ではあるが、地域のニーズに応えるべく分娩取り扱いを続行している。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

地域の急性期病院（医療センター、医師会病院）における加療を経て、自宅に戻るまでの対応を中心とした医療を提供していく。

医療の提供において、リハビリ機能や栄養面でのケアを付加価値として強化することで、地域の要請に応えたい。

② 今後持つべき病床機能

急性期病床、療養病床の規模を再検証する。

③ その他見直すべき点

外来受診からの入院、他院からの紹介入院等、地域内の横のつながりを円滑化し活性化するため、近隣の病院との機能の重複のないよう意識するとともに、連携を深め、共存共栄を目指す。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	41		41
回復期			
慢性期	19		19
休棟等			
(合計)	60		60
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

--

【4. その他】(自由記載)

--

みどり病院

医療機関2025プラン

平成30年 9月 策定

【基本情報】

医療機関名	医療法人 南和会 みどり病院
開設主体	医療法人 南和会
所在地	岩国市由宇町359-1
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	180床 療養病床 180床 医療療養病床 120床 介護療養病床 60床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	180床 療養病床 180床 医療療養病床 120床 介護療養病床 60床
診療科目	内科、リハビリテーション科
職員数 ・ 医師 ・ 看護職員 ・ 専門職 ・ 事務職員	147名 7名 60名 介護職員 49名 23名 8名

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

- ・療養病棟入院基本料Ⅰ 120床
病床稼働率 89.7% 医療区分Ⅱ、Ⅲの占める割合91.19%
- ・病院療養型Ⅰ（療養機能強化型A 60床 平均介護度 4.38 病床稼働率 94%）

② 自施設の課題

- ・看護師、介護職員不足、職員の高齢化による業務負担をどのように軽減させるか。
- ・一般病棟からの入院患者の在宅復帰率が算定基準を満たすように維持増加させる。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・看取りケア、ターミナルケアを支える医療の提供
- ・近隣の医療機関との連携を潤滑に図っていく

② 今後持つべき病床機能

医療療養病床は当面現状維持とする

③ その他見直すべき点

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期			
回復期			
慢性期	180 (医療120 介護60)		120
休棟等			
(合計)	180		120
介護保険施設へ移行予定	—		60
うち、介護医療院	—		60

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標
2018 ～ 2019	介護療養病床60床を介護医療院に移行	地域で過剰な慢性期医療の削減

③ 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

④ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

--

【4. その他】(自由記載)

--